



怖くないの?



ほら、見て



あ!いた!!ここに!!

エピソード

ダンゴムシの飼育ケースを園庭の日陰に置いておくと、数人の3歳児がその周りで集まってきました。

ダンゴムシに触ったことない A 児は「怖くないの?」とそばにいた保育者や B 児に言います。「噛まないし、怖くないよ」と保育者が言うと恐る恐る触ります。チョンと指先で触って「きゃっ」と言いながら指を引っ込めますが嬉しそうです。

C 児と D 児は「あ!この奥にいる」「手、届かないねえ」と、保育室前のオシロイバナの茂みをのぞいたり、「こっちの方も見てみよう」「あ!いた!!ここに」と見つけたダンゴムシを手のひらに乗せて触ったりしています。

E 児は、手のひらのダンゴムシを黙ってじっくり見ている。保育者が近くに行くと、そっと保育者の手に乗せニコッと笑顔を見せました。保育者も笑顔を返すと、再びダンゴムシを大事そうにじっくり見だしました。

保育者の思い

ダンゴムシを見たり、触ったりする子が増え、集まった子ども達での会話が増えてきたな。ダンゴムシを通して関わる友達が増えてほしい。

友達が触っているのを見て、自分も触ってみたいと心が動き始めた!怖くないことを知ってほしい。

子どもたちは、オシロイバナの茂みにダンゴムシがたくさんいることに気付いた。いろいろな友達に知らせたり、話したりしながら見つけることを楽しんでほしい。

一人でじっくりダンゴムシを見て考えたり感じたりしているな。保育者や友達と感じたことを共感する嬉しさを味わってほしい。

子どもの育ちや学び

- その場に集まった友達と一緒にダンゴムシを探したり、「怖くないの?」と友達に聞いたりしてダンゴムシに興味をもつ子が増えました。
- 「オシロイバナの茂みにはいる」と分かって、何度もその場所で探すことを楽しんでいました。
- ダンゴムシに触れることで、小さな生き物に興味をもつきっかけとなりました。

家庭だったら・・・

- どこにでもいる身近な生き物であるダンゴムシ。ダンゴムシに限らず、しゃがんで子どもの目線になって見たり、図鑑や絵本を見たりすると、面白くなってきて、大人が夢中になってしまうかもしれません。